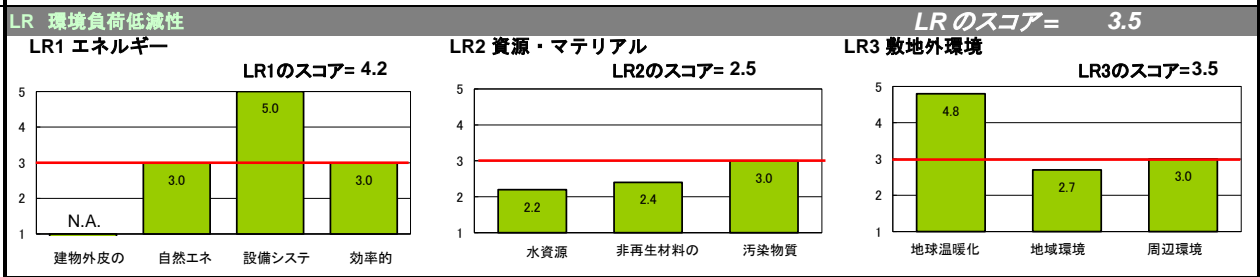
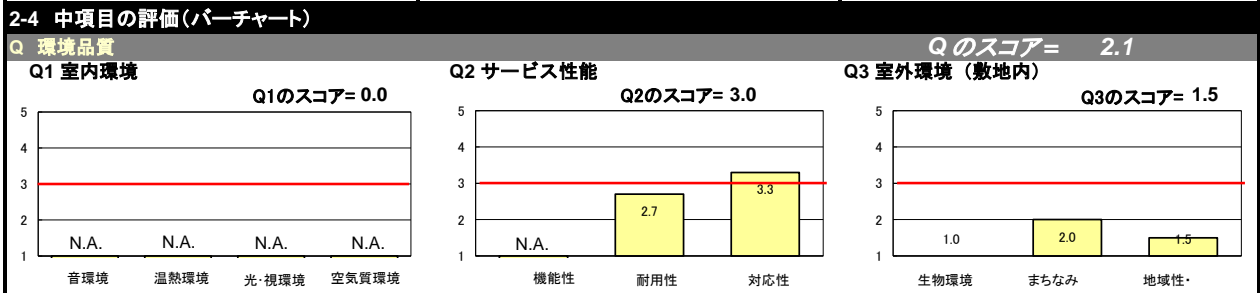
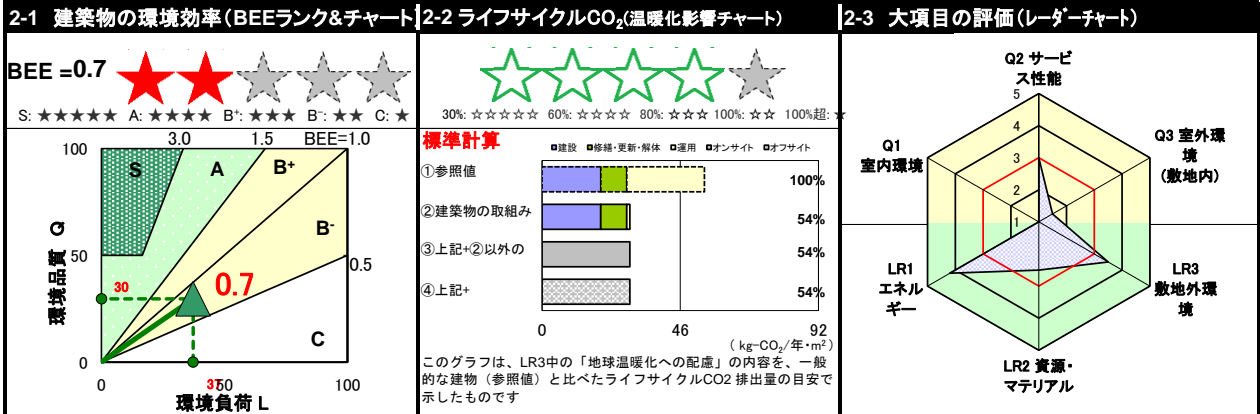


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	横浜火力発電所1,2号機建設工事 石こう処理建屋	階数	地上2F
建設地	横浜質市久里浜9丁目2260番3ほか23筆	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条区域	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2019年11月20日
敷地面積	13,870 m ²	作成者	三菱日立パワーシステムズ株式会社土木建築技術部長崎事務所
建築面積	2,634 m ²	確認日	2019年11月21日
延床面積	3,516 m ²	確認者	三菱日立パワーシステムズ株式会社土木建築技術部長崎事務所

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



3 設計上の配慮事項		
総合 高さ、建築面積とも十分な大きさを持つ建物のため、発電所からの騒音に対する遮蔽物としても機能するよう近隣の第1種住居地域に比較的近い位置にするよう配慮した。		その他 特に無し。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能 (長く使い続ける) 地盤調査に基づく安全な基礎方式と基礎形状の検討を実施している。 外装材等、耐用性・メンテナンス性を配慮する。	Q3 室外環境(敷地内) (街並みを豊かにする) 建築物のベースカラーは1~2色とし統一感を図る。爽やかな臨港地区のイメージを踏襲してベースカラーをオフホワイト系、アクセントカラーを寒色系とする。屋根は折版屋根を使用し、周囲の工業地域との調和を図る。既存を逸脱したデザインとならないように配慮する。
LR1 エネルギー (エネルギーと水を大切に使う) 高効率機器、LED照明の採用で設備システムの高効率化を図っている。	LR2 資源・マテリアル (資源を大切に使いゴミを減らす) 汎用性の高い材料と効率よい材料をバランスよく採用する。	LR3 敷地外環境 (周辺環境に配慮する) 主要な建物等の色彩等は、ベースカラーをオフホワイト系、アクセントカラーを寒色系とすることにより、周辺自然景観色及び周辺景観との調和に配慮する計画とする。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される